

障害者後見的支援室の取り組み

# 『つどう会』を通した 地域でのつながりづくり

障害者後見的支援室（以下、「支援室」）では、登録者が地域で安心して暮らしていくために、地域での見守り体制づくりを目指し、様々な取り組みを進めている。あんしんキーパー（以下、「キーパー」※1）を含めた地域の人たちや、登録者とその家族が集まる場として開催している『つどう会』も、その取り組みの一つである。

今回は、令和4年度に開催された各区の『つどう会』を紹介する。

## あんしんキーパー同士のつながりを

昨年11月、『緑区障がい者後見的支援室みどりのこかげ』は、初めて『あんしんキーパーの集い』を開催。キーパーと登録者、キーパーと支援室という線でのつながりを、キーパー同士もつながる輪にできたらと考え、企画した。

当日は、5名のキーパーが参加。日ごろの見守りの様子を話していただく中で、「Aさんの歌う鼻歌を聞き、元気そうだなと思っている」、「Bさん

と道で会ったら、手を振り合って挨拶している」などの普段の様子を、支援室も知ることができた。また、「Cさんに挨拶しても返事はないが、嫌がられているのだろうか」、「Dさんに日ごろ会う機会ないけれど、キーパーのままでもいいのか」といった疑問も率直に話していただき、意見交換をした。

参加者からは「ひとりひとり違う見守りの形があることを知ることができてよかった」という声が寄せられた。スタッフの大越さんは「これまでも説明してきていたが、同じ立場のキーパーの話聞き、参加者ひとりひとりがキーパーの役割をより実感できたのではないかと思う」と話す。



それぞれの想いを語る参加者  
（みどりのこかげ）

## 登録者・家族にも

『旭区障害者後見的支援室絆』では、昨年6月に『あんしんキーパーつどう会』を開催。2回目となる今回は、参加者同士が顔見知りになり、地域での見守りにもつながってほしいと願い、キーパーの他に、登録者やその家族にも声をかけた（13名が参加）。

当日は、参加者にキーパーの具体的なイメージをもってもらおうと、登録者へのインタビューやキーパーのお話も交えながら、登録者とキーパーとの普段のかかわりを伝えた。後半は『お互いの思いを知る』をテーマにグループワークを行った。あるご家族は「我が子のことを知っている人がいることが安心につながっている」、あるキーパーは「以前からの知り合いとして、Aさんとお付き合いしているだけで、特別なことはしていない」と、それぞれの立場から感じていること等を話していただいた。

スタッフの一戸さんは「今後も、参加者同士の顔つなぎの場として、この会を続けていきたい」と語った。



説明に耳を傾ける参加者たち  
（絆）

## さまざまな形で

参加者たちが話し合うだけではない形の『つどう会』も行われている。

『金沢区障害者後見的支援室帆海』も2回目の開催。キーパーのみなさんに障害のある人の日中活動の様子を知ってもらおうと、『金沢地域活動ホームりんごの森』の施設見学を取り入れた（6名のキーパーが参加）。



見学した『りんごの森』（帆海）

参加者からは「利用者さんの得意分野を生かして作業をしていることが素晴らしい」、「障害のある人の生活の様子を知る機会が少ない。今日のような機会が必要と実感した」などの感想をいただいた。

また、『磯子区障害者後見的支援室コネクト・ハート』では、登録者・家族とキーパーを対象に『コネクトDe集う会』を開催（28名参加）。

初めて会う参加者たちの緊張を和らげようと、最初に『ハマトレみんなのISOGO体操（※2）』を行った。講師は、登録者の飛田さん。面談でこの体操の講師をやっていることを知り、依頼したところ、快く引き受けてくださった。

当日は、飛田さんの動きを見ながら、身体を動かした参加者たち。身体も心もほぐれ、その後のグループ交流では、どのグループも話が弾んでい

た。飛田さんは「とても有意義で楽しい時間を過ごせた」と話していた。

そして、港北区にある『さぽーと・うみ』では、誰もが楽しめる会にしたいと考え、『音楽会』開催（27名参加）。

キーパーであり、ピアノの先生でもある青木さんの「何かお手伝いできることがあれば協力したい」との話を思い出し、演奏を頼んだ。



音楽に合わせて歌おう！  
（さぽーと・うみ）



「腕を上げて」と伝える飛田さん  
（中央）（コネクト・ハート）

青木さんからもたくさんのアイデアをいただき、当日は、登録者・家族・キーパーが、ピアノ演奏にあわせてハンドベルや鈴、持参した太鼓などを鳴らしたり、ハンドベルの実演にも挑戦した。また、美しいピアノの音色にも耳を傾けながら、登録者とその家族、キーパーの皆さんが共に楽しいひと時を過ごした。

## これからも

どの区の『つどう会』でも、「来年度も開催してほしい」という声に参加者たちから寄せられている。今後も、支援室が地域の人たちと登録者たちをつなぐキーステーションになり、地域でのつながりが広がっていくことを願っている。

### ※1 あんしんキーパー

障害のある人の地域生活を見守っていただくボランティアとして、後見的支援室に登録し活動している。

### ※2 ハマトレみんなのISOGO体操

横浜市が開発した、高齢者がいつまでも元気に歩く体づくりトレーニング「ハマトレ」に磯子区民が作詞した歌「みんなのISOGO」を合わせた体操。詳しくは『ISOGO体操』で検索してください。